

# とんがり通信

福よ来い!



みんなの明日に!

No.250



～主な内容～

- ・施設長コラム      ・3.11 つながる力
- ・特集 震災から10年
- ・豆まき      ・選択研修
- ・Close-up!      ・職員コラム ほか

仙台つどいの家編集室  
発行責任者 山口 収  
発行日 2021年3月25日  
〒983-0836 仙台市宮城野区幸町3丁目12-16  
Tel 022(293)3751 Fax 022(293)3752  
E-mail [sendai@tsudoinoie.or.jp](mailto:sendai@tsudoinoie.or.jp)  
ホームページ <http://www.tsudoinoie.or.jp>



## 『節目』や『復興』と言うけれど… ～フクシマを忘れない～ の巻

今年もまた3月11日がやってきました。今年はその震災から10年ということで、『東日本大震災節目の10年』『復興までの軌跡』…などと各メディアでも大々的に取り扱われることが多かったように感じます。菅総理も3月6日には福島県を訪れ、11日の政府主催の追悼式典では『被災地に寄り添いながら、復興の総仕上げに全力で取り組んでいきたい』との式辞を述べました。

確かに…あの日から10年の歳月が経過しました。津波被害の大きかった沿岸部においても大規模なかさ上げ工事や防潮堤の整備もほぼ終了し、仮設店舗で営業していた復興屋台村が立派な本設の商業施設に姿を変えています。そんな10年の経過の中で、震災前の賑わいを取り戻した町もあれば、復興ボランティアや観光客の減少に伴って寂しい光景が広がっている町もあります。ともあれ、被災した多くの方々の思いは、『10年は決して節目ではない!』『現時点では復興半ば!』『まだまだ総仕上げという段階にはない!』という、政府やメディアがこぞって取り上げるテーマとは乖離した状況です。

女川町は復興計画を立てる際に『海に見える町』をテーマに掲げました。他の多くの自治体がビルの3階ほどもある防潮堤で周囲をぐるり囲まれているのとは対照的です。当時還暦を迎えていた復興連絡協議会の会長は、『還暦以上は口出すな!』と若者たちの意見を積極的に計画に反映させたといいます。それはこの町が完全に『復興』を遂げるまでには20年・30年の年月が必要だと考えたからです。町の行方は若い世代に託されました。かくして、かさ上げされた町からは海が見渡せ、漁師町女川のかつての姿を思い起こさせる光景です。このように形の上では復興を遂げたかに見える女川町ですら、町づくりの成果が具体的に見えるのはここからさらに10年後だと町民たちは考えているのです。

もうひとつ。以前から繰り返し書いていることですが、フクシマを取り巻く状況が気になります。震災における原発事故を受けて、福島県は明らかに他の被災県に比べて状況が長期化・深刻化しています。前述したように『政府』『メディア』と『被災地の住民』の『復興』のとらえ方にも乖離・温度差がありますが、さらに『10年経った今も、復興に向けたスタートラインにも立てていない地域』が福島県内には厳然と存在しているのです。

福島第一・第二原発に近接する『富岡町・大熊町・双葉町・浪江町・葛尾村・飯館村・南相馬市』の七市町村には、将来にわたって居住を制限するとされる『帰還困難区域』が広がっています。エリア内は『特定復興再生拠点区域(復興拠点)』と呼ばれる一部地域を除き、現在も除染が手つかずで放射線量が高い地域があります。一方『復興拠点』は除染や住宅整備を優先的に進め、避難指示を解除して再び人の居住を可能とする地域で、各町村では早期の居住開始を目指しています。しかし、帰還困難区域全体に占める復興拠点の面積はわずか1割にも満たないのが現実です。わずかばかりの復興拠点に住宅が整備されても、もともと住んでいた自宅には戻れず学校や職場もなく、現実的に新たなコミュニティを構築しながら人々の営みが戻ってくるのはいったいいつになるのでしょうか。さらに、国は復興拠点の整備に力を入れる一方で、各町村が求める『帰還困難区域のうち復興拠点外の除染』については明確な回答を避けています。『汚してしまった土地はきれいにしてから持ち主に返すのが当然だ!』という地元の方の声が空しく響き続けます。

原発事故から3年後の3月のとんがらし通信で、帰省の途中に浪江町から富岡町間を南下した際の様子を次のように書いています。『…辺りに人の気配は全くなく、家々の門扉や玄関の入り口にはおそらく不法侵入を防ぐためであろうシャッター柵が設置され…』『…家屋も店舗も何もかもそのままなのに人の営みの全くない町。それぞれの目的地に向かう車両が足早に通過するだけの町。まさにゴーストタウンを抜けて…』。7年経った現在の様子をこの目で見たいと思い、先日現地を訪れました。富岡インターチェンジを降り記憶を頼りに国道6号線方面に。途中、桜並木で有名な夜ノ森周辺をぐるりと回りましたが、人の気配はほとんどなくひっそりと静まり返っています。国道6号線を富岡町・大熊町・双葉町・浪江町と北上します。帰還困難区域はどこもかしこも、7年前の光景がそのままに広がっています。原発事故の直前まで営業を続けていたであろう飲食店が、ガソリンスタンドが、時を止めたようにひっそりと立っている脇を、猛スピードでダンプが走り去ります。。『節目』だとか『復興』だとか。そういったものから取り残されて、10年経っても何も変わらない光景が今もフクシマにはあるのだということを私たちは決して忘れてはいけません。何十年かかるのか分かりません。それでも、『ほんとうの空がある』フクシマが元の姿を取り戻した時にこそ、この国がああ震災からようやく復興を遂げたのだと言えるのではないのでしょうか。(管理者 山口 収)



# 全体研修「3.11 つながる力」

震災から10年となる3月11日、つどいの家では法人全体で「3.11 つながる力」と題した研修を行いました。震災当時の法人や各事業所での体験を語り、それらを教訓として将来に繋げていくことを目的としたものです。新型コロナウイルスによる影響もあり、今回はオンラインと各事業所内での座談会という2部構成での開催となりました。



第1部では通所系、地域系、グループホーム等各事業所の職員により、震災当時の様子やそれぞれの現場での体験についてオンラインを通して語られました。

通所系の事業所からは、施設が損壊したため内部を使用できず、敷地内にテントを張って拠点としたり、利用できる他の施設を転々とするなど苦心しながらも何とか活動を行ったこと、また環境が大きく変化したことにより利用者や職員が疲弊していったという話が挙がりました。

またグループホームの職員からは、男性ホームの被害が大きく住めない状況になってしまったために、やむなく女性ホームで（一時的に）男女混合で生活することになり、プライバシーの確保が課題になったという切実な話も聞かれました。

震災当時は寒さの残る時期であり、電気や水道などのライフラインや食料の確保もままならない中、利用者・職員ともに身の安全を守りながら日常生活を送ることの難しさが垣間見えました。

ただ、そんな状況下でも利用者家族や地域の方、また県外からのボランティアなど様々な協力を頂きながら少しずつ環境を整えていったという話が印象的で、人との繋がりを持ち続けることの大切さを改めて感じました。

第2部では、事業所内で2グループに分かれ、職員同士で震災当時の各々の状況について語り合いました。

地震が起きたその時、つどいの家に在職中のため利用者と避難を行った、県外におり仙台との被害の差に驚いた…といった体験談のほか、まさしく津波の近くにいたものの周囲の人の助けでなんとか避難できたという話も出ており、皆で胸を撫で下ろす場面もありました。

それぞれの職員の経験を振り返る中で、非常時に必要な動きや日常的な備えについて共有することができ、改めて事業所全体での防災意識を高める貴重な機会となりました。



震災から10年が経過した今も、当時の記憶はいまだに鮮明に思い出されるという方も多いかと思います。今回様々な話を耳にした中で、現在仙台つどいの家で皆と過ごしている時間が、利用者やその家族、また職員それぞれが気力を振り絞り、未曾有の事態を乗り越えてきた上に成り立っているものなのだと実感しました。

日常的に不安の尽きないこの頃ではありますが、そのような中でも、自身の身の回りの防災について今一度見直していきたいと感じられた研修でした。

（記：寺島）



# 特集！ 震災から10年！あの日の私たち

未曾有の被害を出した東日本大震災から早10年。当時南光台にあった仙台つどいの家も全壊という大きな被害を受け、移転を余儀なくされました。4つの異なる視点から、当時を振り返ってもらいました。（記：松原）

## 被災時、自宅が全壊してしまった後藤彩也佳さんのお母さんより

東日本大震災から10年という年月がたちました。重度障害を持つ娘彩也佳を抱え途方に暮れそうになっていたあの時、施設の方々の一生懸命の支援で様々な困難を乗り越えることが出来ました。更に我が家の全壊というレベルで引っ越しを余儀なくされ不安な気持ちでいた時、周りの方々の手助けで無事に今のところに移り住むことが出来ました。

そして現在、家族皆元気で何事もなかったかのように暮らしていて、正直もう10年かという気持ちです。しかし報道で、まだまだ普通の生活が送れないでいる方が沢山いらっしゃることを耳にして、そのことを考えると改めて心が痛みます。

その方々にとってはまだ10年なのでしょう。

沿岸部と内陸部では被災被害の質が全く違います。

昨今復旧とか復興の言葉が飛び交いますが、大津波や原発事故の膨大な被害を被った方々はむなしく聞こえる言葉なのかもしれません。

奇しくも今世の中は新型コロナという驚異のウィルスの感染拡大を防ぐため全世界をあげて行動の自粛や生活環境の在り方の見直しを計らなければならない未曾有の出来事に直面しています。震災のことなど忘れ去ったかのような騒ぎになっています。でも日本は地震国です。東日本大震災は私たちに様々な試練を与えました。まだ続く余震やこれから予想される余震に備えるための教訓としたいものです。



↑バスでの外出を楽しむ彩也佳さん

## つどいの家コペルで被災した職員堀内さんより

あれから3.11は忘れられない日になりました。あの日以降、毎年3月11日が近づくと各メディアでは特集が組まれ、街や人もどこか落ち着かない空気に包まれます。否応なし思い出される忘れられない記憶。でもそれは私たちが望んできたことでもありました。10年間繰り返しあの日を振り返りました。失った大切な人を。モノを。時間を片時も忘れることのないように。同じ悲しみや苦しみを生まないようにあの日と引き換えに得た学びをひたすらに後世へ伝えるために。

あの日、私はつどいの家・コペルで利用者さんと一緒にいました。幸いにも皆さん無事にあの日は乗り越えましたが、その後の見えない傷に苦しんだ方も多くいらっしゃいました。少しずつ前に進まれて今があります。つきなみですが、そんな姿に支えられ、勇気づけられた10年でした。これからはきっとこの10年歩んだ道を歩いていくのだらうと思います。何か変わったかと言われれば何も変わりませんでした。人はあの日に区切りやまとめを欲しがるとは思いますが、わたしにとって10年目の3.11もこれまでと連続した、ただの一日で何の変哲もありません。もしも生かされるのなら、きっとこの先もあの日のことを決して忘れることなく、目の前の人とともに在ることに懸命になる毎日がそこにあるだけだと思っています。



## グループホームが被災し、男性ホームと共同生活をした菊地愛子さんより

あの日を振り返ろう 3月11日 抑えきれない心！悲しみ！

平成23年の10年前、東日本大震災がありました。とつぜんの悪夢でした。

震度7。ガスのにおい、たれさがっている電線、こわれているシャッター！

ライフラインつうじない、地下鉄もうごかない。

グループホームではさくらはうすが崩れ、男性といっしょにまとまって生活していました。うなぎのねどこでした。

いつまでこんな生活が続くのかなあ～と思いました。

希望も心も失った私たちに県外県内の人たちから心の励ましファイトをもらい心が明るくなりました。

ストレスがかからないように相談員と相談しました。

一番こわかったのは余震でした。仙つのホールの

天井が落下して車いすがうまってしまいました。

しばらく南光台の仮設での活動でした。

3.11の事は抑えられないほどの涙が出ました。

震災で失った心は消えることはありません。

心からの悲しみはいつまでも残ります。

ちなみに！アマビエちゃんは日本震災の活動にも入っています。

アマビエちゃんはみんなの優しいヒーローです。



(記・絵：菊地愛子さん)

## 被災当時学生だった職員吉田咲さんより

震災当時私は学生で、授業のない日、近所の文房具店で買い物をしていました。

揺れが始まって音の大きさにこれは大きそうだなと感じ、すぐに駐車場に避難しました。店員の方が「中に人はいません」と叫んだそのすぐあと。揺れがさらに強くなり、店の中が停電し中の棚や物が倒れ目の前の道路の信号が消えました。揺れがおさまってすぐに自宅に戻り、家族の安否を確認しました。

家族の安否がわかったときはとても安心しました。その後、電気とガスが1週間近く使えずとても不便だったことを覚えています。ニュースで報道される原発や津波の被害を見て揺れだけではない地震の被害の大きさを知りました。

当時は大学生だったのでその後も授業が休校となってしまう、自分も何か役には立てないのかと考え、ボランティア活動に参加しました。被災したお年寄りの家の片づけの手伝いや津波が引いた後の田んぼのごみ拾いなどをしました。「こういう時こそ助け合って！」という声を当時はよく耳にしていたと思います。社会人になった今でもこういったピンチのときに助け合える地域の関係づくりは大切なのではと感じています。

あれから10年経った今、時々震災のことを思い出して教訓を語りあい災害に備え、気がゆるむことのないようにしたいと感じています。

鬼は外！

豆まき

福は内！

124年ぶりに節分が2月2日になった今年、仙台つどいの家では変わらず2月3日に豆まきを行いました！例年は、イオン幸町店の社員さんたちと交流しながら行っていましたが、今年はこのご時世なので叶わず。豆の代わりにカラーボール、鬼は各グループに訪問する、と感染対策をして実施しました👹

そんな制約がある中でしたが、準備をしっかりと行って機運を上げました！鬼のパンツ、鬼の面、金棒も各グループで創作しました。なぜか機関銃もどきも登場していましたが…



当日は、テンションの上がった鬼に驚いたり、喜んだり。なかなか外出できないこともあって、まるでストレスを発散するかのように「カラーボールまき」をしました。時に、カラーボール以外も投げられたり(笑)無事に鬼退治でき、疫病退散、無病息災など思い思いに願いを込めました！

来年は交流しながら、そして本当の豆を投げられると良いですね☆  
(記：杏奈)



## 研修報告

### 『相談支援事業について』

相談支援事業所とはしょうがいのある方やそのご家族の相談に応じ、地域での生活をより豊かに送れるようお手伝いをする事業所です。今回の研修では事例をもとに実践する内容でした。学生時代に学んだ用語が出てきてなんとなく覚えていましたが、改めて学ぶ必要がありました。これから利用するうえでどのようなサービスが利用できるかが勉強になりました。

今回の事例ではインフォーマルなサービスにつながったという話があり、いろいろな視点をもつことが大切ということ学びました。どうしても公的なサービスだけでは限界があり、全てを一人で抱えるのではなくチームで動くことが重要です。周囲に頼れる資源がたくさんあればあるほど、利用者にとっては孤立を防ぐことにもなるということでした。

今回の研修にあたっては自分自身の勉強不足もあり、ある程度事前の学習も必要だと感じました。今回は成功した事例でしたがうまく繋がらなかった事例も多いようです。理解が難しいところもあり、もう一度受けてみたいと思いました。ありがとうございました。

(記：八鍬)



Close-up!



さいけんじ  
斎健二さん



今日もニコケン!



散歩をして  
ニコケン!

今回の Close-Up! のコーナーは、さんしょグループの『ニコケン(^-^)] こと【斎健二さん】です。登所時に健二さんの連絡ノートを確認すると、お母さんから「今日も元気、ニコケンです」と書いてあります。『ニコケン』とは?【ニコニコしている笑顔の健二さん】の略です。

朝の送迎で健二さんの家に迎えに行くと、ヘルパーさんと自宅前を散歩している健二さんが『ニコケン』であいさつしてくれます。外に出ること、散歩すること、車椅子で動くことが大好きな健二さんは、毎日朝からニコケンで待っていてくれます。さらに、車に乗ること、ドライブすることが好きで、特に送迎車の車椅子用リフトが好きなので、リフトに乗ったとき、リフトで上がる時には、『ニコニコケン(^o^)] (ニコケンより笑顔) になって、とても嬉しそうなる表情になります。お話しすることも好きな健二さんは、人に話し掛けられると「ニコケン」の表情で返事してくれます。その笑顔を見ると、相手も自然とニコニコと笑顔になって会話も楽しくなります。『ニコケン』は周りの皆を明るくする笑顔です。

皆さんも健二さんの『ニコケン』に会って、楽しく、明るくなりましょう! 仙台つどいの家でお待ちしています。もしかしたら、『スーパーニコケン(^o^)] (ニコケンの最上級) に会えるかもしれません… (記: 佐藤和)



車のリフトに乗って  
ニコニコケン!

職員コラム!

おのともこ  
事務員「小野智子さん」です!

マスク着用が当たり前になった今、新たな出会いもマスク顔だったり、見慣れていた顔なのにたまに外した顔を見ると、とても新鮮な気持ちになったり。。。表情が見えないのは寂しいなあと思いつつも、「目は口ほどに物をいう」ということわざがあるように、人の目にはその人の感情がとても表れるなあ。。。と改めて思うのは私だけでしょうか??

顔が半分隠れていて、何も話していなくても楽しそうだったり、怒ってたり、自分が意図していなくても、感情が目を見ただけで伝わってしまうことも。目の力って凄い!!そして、怖い。。。けど、面白い(笑)

ところで、最近流行りのデリバリー、皆さん利用したことはありますか??外出しなくても食べたいものをお届けしてくれるって、嬉しいですね!!幅広い料理が手軽に食べられるため、ついつい我が家はいつの間にか勝手にデリバリーを楽しんでる方も。。。美味しい食べ物は子供達のお腹に入るばかりで、支払だけ私なんて((+\_+))

なんだかんだ地味に楽しみつつも、やっぱりマスクを外して、美味しい物食べて思いっきり笑える日が待ち遠しいです。(記: 小野)

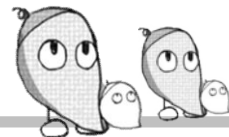
利用者にも愛される  
『小野さんの似顔絵』



菊地愛子さん 作



奥津欣也さん 作



## スケジュール schedule

### 令和3年 4月

- 1日(木) 通所休館(辞令交付式)
- 2日(火) ケース会議 13:30 降所
- 5日・6日(月・火) 新任職員研修
- 15日(木) 防災ネットワーク訓練
- 16日(金) 施設懇談会
- 20日(火) ケース会議 13:30 降所
- 26日(月) 職員会議
- 29日(木) 休日開館(もみじグループ)



### 令和3年 5月

- 8日(土) 常勤職員出勤日
- 11日(火) ケース会議 13:30 降所
- 12日(水) レントゲン(利用者)
- 14日(金) 防災ネットワーク訓練
- 17日(月) 施設懇談会
- 20日(木) ケース会議 13:30 降所
- 25日(火) 職員会議

## 編集後記

久しぶりに雪が降ることが多かった仙台でしたが、皆さんはどんな冬を過ごしましたか？ 雪ダルマや雪合戦などで遊びましたか？ 山形県で育った私は、冬にたくさんの雪が降ることが当たり前で、仙台に住み始めて、冬の道路に雪が無いことに驚いたほどです。なので、山形の冬で外を歩く時は「靴を履くなんて、ありえません」靴なんて履いて雪道を歩いたら、すぐに靴が濡れてしまいます。山形での冬の履物は、『ブーツor長靴』です！ 「長靴なんて、カッコわるい」と思うかも知れませんが、長靴は足が濡れないし、温かいし、『長靴、最強です!!』普通に一晩で膝上まで雪が積もりますから… これから山形県に住もうと考えている方は、冬になったら【かわいい・カッコいい】長靴をゲットしてください。でも、その長靴を履いて毎日雪かきですけどね… (#^.^#)

(記：佐藤和)

## ご協力ありがとうございます

ボランティアとして協力して頂いた皆様

(1月11日～3月10日まで)

吉田さん

### 見学・来訪者など

後援会会長(針持さん)、囑託医(松尾医師)、北部アーチル(後藤さん、遠藤さん)、介護職員初任者研修(3名)、聖和短期大学(阿部さん)、東京法律専門学校(阿部さん、渡辺さん)、もりのとびら(伴さん)、佐々木さん、杉下さん、菅原さん、民生委員(赤羽さん)、コペル利用者、アプリ利用者、ヤクルト、今庄青果、鈴木米穀、マルイ、マルキ水産、サトー商会、米夢、ダスキン、ホシザキ東北、仙台大気堂、日本テクノ、サンメディカル、ブルームテック、東京サラヤ、バイタルネット、ジェーシーアイ、風の郷工房、ハート総合企画

法人職員：佐藤理事長、下郡山理事、佐藤(吉)、飯田、小野、安斎、加藤、桑原 (ほか多数)

### 缶回収

2月の納品額

合計 3,680 円でした。

ご協力ありがとうございました。

